

1. 開会

2. 委員委嘱状交付

3. 市長挨拶

ただいま委員の皆さまへ委嘱状を交付させていただきました。この後、地域包括ケアに関わる様々な課題に対してご協議をいただくこととなりますがご協力の程よろしくお願いたします。高齢者の福祉の関係につきましては今さら申し上げることはございませんが、地域社会として今まで経済主導で動いていた社会がこれほど生活を重点において議論されている、或いは生活を中心として再建を志している、こんな時期はないのではないかと考えている。そうしたことから考えても高齢者の皆さんに人生の終焉を迎える時に生きがいと尊厳をもって、その時期を迎えることがいかに大切か、またそのことが後世に繋がっていく現代社会の中での大きな課題と捉えている。そのためにも介護とかいろんなことが話題になりますが高齢者の方々にも健康で、また小さな事かもしれないが、その方々が幸せを感じられる社会になっていく、そのためにも協議をいただくのがこの会議かなと考えている。そんな意味で皆さんの役割は大きなものがあるかと思いますが、そうした地域社会をつくっていくための道を開いていただくという大きな責任があるかと思っておりますのでよろしくお願いたします。今日議題として掲げられているものがございしますが、基端のないところでのご意見、意見交換を重ねていただきますようお願い申し上げます、簡単ですがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

4. 会長・副会長選出

会長—小山内委員 副会長—福永委員

5. 会長・副会長挨拶

小山内会長：

この会議に出るのは初めてですが地域包括ケアに関しては今、難病だとか北海道広域で制度を整備している、その中で9月6日の胆振中部地震において65歳以上の高齢者がどのように対応したのか。この会議とは違うかもしれないがある意味で地域包括ケアは高齢者の地域福祉、この会議だけでなく他の会議でも何らかの連携ができて、うちの病院でも今後に対していろんな課題が出てきた。これを糧にして違った視点でものを見られたらいいのかなと思ひ、会長を引き受けた。皆さんにいろいろ教えていただきながらやっていきたいと思ひますのでよろしくお願いたします。

福永副会長：

介護保険制度もかなり変化をもたらしているが、富良野地域においても介護に関わる高齢者の施策も大きく変わってきている印象を受けている。在宅の方の要望であったり、終末期の特別養護老人ホームのような施設についても今後益々地域の皆様方にとって必要なものになっていきますように考えていきたい。この会議を通して私も勉強させていただいて少しでも市民の方々のためになれたらと考えている。微力ではありますがよろしくお願いたします。

6. 議題

(1) 平成 29 年度地域包括支援センター事業報告について

① 事業報告

② 収支決算

⇒議案に基づき、事務局より説明

(質疑・応答)

小玉委員：

虐待 3 件について、その後改善されているのか。

事務局：

いずれも施設入所や成年後見制度利用により終結している。現在虐待は確認されていない。

有沢委員：

ふまねっと運動について。山部で関わっているが、仲間内から「何回も行くが同じことばかりやっていてステップアップがない」と耳にする。他の地域からは意見は出ていないのか。

事務局：

参加者からはそのような話は聞いたことがない。ふまねっとは毎回同じことをする基本ステップと、月替わりで行う課題ステップ、レクレーションステップの 2 種類ある。この運動の目的はどんどんステップアップして上達するのが、この事業の目的ではなく、個々に参加をして楽しく集い、運動に参加することで歩行機能の改善とか認知機能低下の予防を行うもので、参加者全員がこの教室で成功体験をして帰ってもらうことを心掛けている。なかなか元気でどんどん吸収している方には物足りなさを感じると思うが、介護予防事業として実施しているものなので、家に閉じこもらないで出てきて運動を楽しんでいただく、そうゆう層の方を対象にしていることをご理解いただきたい。

有沢委員：

趣旨はよく分かりましたが、参加者が減っていくような心配が頭をかすめる。いま説明いただいた趣旨を理解してもらうのが先決かと思う。山部のメンバーからは段々足が遠のくような話を聞く。それだけです。

小山内会長：

いいご意見だと思う。これに関しては何か良い方法を考えていただきたい。

松田委員：

ふまねっとの会長をさせていただいています。本来の趣旨は、できない方に合わせるのが基本。元気な方は今までどおり。歩いて行ける場所にあって、毎回出ていただけたら分かると思いますが、向上を目指すというか難しいステップをするのが目的ではなく、認知機能、集中力、注意力、バラ

ンス機能を高めるのが趣旨なので、できる方に合わせるのには目的ではない。山部教室に行ったこと
もありますが、寿光園の方にも喜んで来ていただき、楽しくやっている印象しかない。今までほと
んど全部の教室に参加して状況を見ているが、そうゆうご不満もあるかもしれませんが、コミュニ
ケーション能力を高めることが二次介護予防になりますので、このまま進めさせていただきます。
どうぞよろしくお伝えください。

小山内会長：

私もふまねっと運動をよく分かっていないのですが、その時新しいものが一つあっても楽しいの
かなと思います。そこに人が来て、ふまねっとの動きもそうですが、人との繋がりを作るのが大事
だと思う。運動の合間に会話したり、いろんな人と会うことが良いのかと思う。よろしくお願いします。

草野委員：

昨年の相談件数が、今までの4桁台から減っているのは 介護保険制の理解が広まっているから
なのか、予防支援がうまくいっているところの結果なのか、それとも別の背景理由など把握してい
ることがあれば教えてほしい。

事務局：

カウントの仕方に問題があったかもしれない。一日1件少なかったとしたらこの開きが出ること
もあり得る、また業務量が減っている状況でもなかった。

草野委員：

「地域・高齢者見守り事業」情報交換会の中で話題や議題となっているようなことがあったら教
えてほしい。

事務局：

市内の郵便局からは日常的な声掛けや来局した時の様子で気になることがあった等、いろんな視
点から情報提供があった。今後は気になる方がいた場合に地域包括支援センターへ連絡していただ
くことを再度お願いした。また、お互いの取り組みの情報交換を行った。

小山内会長：

このように情報交換をして、実際に地域包括支援センターに連絡が入ったりしているのか。例え
ばゼンイレブンとか街の細かな所に目が行き届くようになっているが、それが実際どのように活
用されているのか。

事務局：

郵便局とか新聞店からは新聞が溜まっているという情報提供があり、お宅に確認に行ったら、中
で倒れていた、物に挟まって動けなくなっている状況があり、支援に繋がったことが過去にあった。
件数的には多いものではないが、何かの時、気になる状況の時には地域包括支援センターに連絡を

ということが少しずつではあるが関係者の方に伝わってきているように思う。

草野委員：

気にすべきラインは、見かけた人の判断基準によって結構違ってくるのではないかと思う。例えばこうゆう行動を見かけた時にはというベースラインや具体例や判断基準があった方が認知症の方も診断がつくまで埋もれてしまう人がいたり、サービスに繋がっていなかったりしていると思うので、どうゆうことがあったら連絡をしてもらおうとか、こうゆう変わった方がいたとか、実際に体験する例を共有できるような取り組みがあったら、もっと生かされるのかなという期待を持つ。

事務局：

協定締結している各団体企業とはこれまで情報交換は行っていなくて、昨年初めて開催したため、それまでは情報、事例がなかった。29年度から認知症初期集中チームや地域支援推進員を設置したので、そうゆう事例があった場合には活用していくことになる。

菅野委員：

認知症地域支援推進員の配置とあるが、どのような地域の支援推進員なのか。

事務局：

地域包括支援センターでは、これまでも認知症支援や地域に出向いての講話など支援に限らず行ってきているが、国の認知症総合支援事業として認知症初期集中支援チームの設置と認知症地域支援推進員の配置を示されたことにより、富良野市では、地域包括支援センター職員の1名を認知症地域支援推進員として配置した。認知症の支援は、推進員に限らず地域包括支援センター全体で行っていることに変わりない。認知症初期集中支援チームは、医師1名、看護師1名、主任ケアマネ1名の3名体制で構成されていて、介護保険サービスに結びつかない事例や認知症の疑いあるが受診を拒否しているような事例があればチームを活用して、検討するというような仕組みになっている。これまでのケースは医療機関や家族の協力支援により介護サービスへと繋がり、チーム立ち上げには至っていない。

菅野委員：

認知症地域支援推進員は、地域というのではなくて、地域包括支援センターに常駐、配置しているという解釈でよいのか。分かりました。

(2) 平成30年度地域包括支援センター事業計画について

① 事業計画

② 収支予算

⇒議案に基づき、事務局より説明

(質疑・応答)

草野委員：

毎年似たような質問をしてすみません。地域ケア会議の個別ケア会議は開催する予定はあるのか、ないのか。また、その対象は決まっているのか教えていただきたい。

事務局：

地域ケア会議において、ケアマネジャーが抱えている困難事例やサービスに繋がらないケース等あれば個別会議を開催するという事になっているが、昨年もご意見いただいたところですが、開催には至っていない。地域包括支援センターの主任ケアマネに相談して終わることが多かった。国からも地域ケア会議の推進、拡充ということで、個別会議を開催するよう指針が示されている。今後も個別会議は事例があれば、関係者だけではなく、他のケアマネジャーも参加していただき開催していきたい。今月の地域ケア会議において、このことについて周知したところで、それに加えて、今後は地域包括支援センター職員が各事業所へ出向き、ケアマネジャーが抱えているケース、困難事例があれば、そこで個別会議を開催するという方法もあるのかなと考えている。

草野委員：

要支援や要介護1など軽症例が増えてきて、自立支援、改善にもっていかねばならないが、実際ケアプランに結びついていなくて、何でも援助型になってきているので、できれば定期開催の中で、こうしたケアプランが良いのではという検討と共有ができた方が今後の介護保険額をいかに抑制していくかに繋がるので、いろんな方々の中で共有し、意見交換する方向へご検討いただければと思う。

(3) 地域密着型サービス事業者の指定申請に係る事前協議

地域密着型サービス事業者の指定申請に係る事前協議についてとなっておりますが、議題(3)のとおり、すでに10月から事業開始になります。本来であれば5月・6月にこの会議を開催し、意見を聴取しなければならないところでしたが、会議が遅れたことをお詫びします。

⇒議案に基づき、事務局より説明

小山内会長：

ありがとうございました。ただいま事務局からの地域密着型サービス事業者の指定申請に係る事前協議について、ご意見・ご質問ございませんか。(意見・質問なし)

それでは、(4)の地域包括ケア推進に関する事、第6期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における実績について、事務局から説明をお願いします。

(4) 地域包括ケア推進に関する事

① 第6期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における実績

⇒議案に基づき、事務局より説明

小山内会長：

どうもありがとうございました。第6期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における実績について説明がありましたが、ご意見ご質問ありませんか。なければ、次に移りますが、よ

ろしいでしょうか。(意見・質問なし)

では、最後に7. その他について事務局からお願いします。

事務局：

その他については、特にありません

小山内会長：

それでは最後になりましたが、全体を通してご質問ご意見、また今後についてのご意見がございませんか。

草野委員：

訪問リハで訪問に出っていますが、実際に地域の中で気になることがあります。市中心部から遠方の方の場合、外出支援でのタクシーチケットはありますが、遠いとすぐになくなってしまいます。その方は頑張ってバス停まで歩いていますが、バス停までの距離が遠く、障害がある中で歩いていると、休憩する場所があるだけでもバス停まで行きやすくなります。例えばバス停までの区間の間にベンチが置いてあるなどの環境整備があると、頑張って歩いている方が自立を継続して過ごしやすい環境を整えていただけたらいいと思いますがいかがでしょうか

事務局：

今ご質問頂いた件につきましては23ページにあります生活支援体制整備事業に関連する部分だと思われます。生活支援コーディネーターを社会福祉協議会に委託していますが、地域と相談しながら高齢者の生活について一緒に支援を考えています。山部地区についてはコーディネーターで取り組んでいますので、コーディネーターから説明していただきます。

コーディネーター：

草野委員からご質問というかご要望だと思いますが、山部地区には第3協議体というものを設置して、その協議体の中で国道沿いのバス停にベンチを設置する事業を実施しています。農協店舗前と農協倉庫前の2か所に設置していますが、草野委員さんからのバス停まで行く途中にベンチがあればいいのではとのご要望があったので、再度山部の皆様と協議していきたいと思います。ただベンチ設置については歩道に勝手に置くことは出来ず、設置許可もほぼできません。なので、どなたかの私有地で許可していただける方がいれば、地域の方のご理解とご協力のもとでの事業ですので、草野委員の方で、この場所にあったらいいのではないかと思うところがありましたら教えていただきたいと思います。

草野委員：

バス停で休まれることも大事ですが、距離が遠くて途中で休むことができればいいのでうまく出来ればいいなと思います。また許可が出ないのはどうしてでしょうか。

コーディネーター：

許可が出ないのは、まず歩道は歩く場所で、物を置くことによって事故が起きる可能性があり訴訟問題になることもあります。今回設置した場所は、農協の所有地であり、農協に許可を取って安全面にも配慮した形で設置しています。

小山内会長：

ありがとうございました。他に何かありませんか。

無いようですので、これで第1回富良野市地域包括支援センター運営協議会及び第1回富良野市地域ケア推進会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。